

# 県民の森 だより

2018  
2月号



ミヤマガマズミの冬芽

発行

宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801

〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41

(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料

利用時間：4月～10月/9時～16時30分

11月～3月/9時～16時

先月は4年ぶりの厳しい寒さとなり 20cm程の積雪となりました。今は、清閑な園内ならではの景色を堪能できる毎日ですが、立春を迎えようやく寒い日々から一步踏み出そうとしています。

この寒さの中でも太陽の恵みをいただいている冬芽はしっかりと膨らみ始めており、月の半ばを過ぎれば皆様方の期待に応え木々の芽吹きも日々進んでまいります。

間もなく賑やかな園内になりますのでそれまでもう暫くお待ちください。(所長：蜂谷仁)

## 園内防火巡視開始 (2/15 ~ 5/17) ※写真は2017年2月15日の山林火災の様子

空気が乾燥するこの季節は、山火事には特に用心が必要です。甚大な被害をもたらした昭和58年4月27日の県民の森火災を教訓に、毎年警備会社の全日警さんと協同で防火巡視を実施しております。

昨年は松陵4丁目付近での山林火災が相次ぎ、園内の「こならの道」にも延焼し、樹木が焼失する被害が発生してしまいました。

今年は周辺巡視をさらに強化すると共に、散策で園内を利用される皆様方にも、防火にご協力頂きますよう、どうぞよろしくお願い致します。



中央記念館でサリをかしだしているよ

## 冬期間道路閉鎖のお知らせ



冬期間中の道路の安全確保のため、サクラ見本園から青麻神社方面への急坂(左記点線箇所)が現在通行止となっております

おります(解除は3月下旬の予定)。ご不便をお掛け致しますが、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

## 県民の森名木紹介 vol.39 イヌブナ

今年の干支の「イヌ」がつく植物はたくさんありますが、その中でも最も大きく見栄えのする、イヌブナを取り上げました。

写真は中央記念館東側のメタセコイアの林縁にある一本ですが、ブナに比べ低地に分布することから、園内でも所々に見られます。写真の木の他、東側芝生広場の北東隅から下る遊歩道の中ほどに、高さ20m近い見事な大木が数本あります。

樹名のイヌは、否(いな)等の異なるという意味とのことですが、音楽堂裏のブナと比べ、どかが「イヌ」なのか観察してみてください。

※幹肌が濃い灰色なため、別名クロブナと呼ばれるのも、「イヌ」の理由の一つです。(工藤)



## 今月のけんみんのもり写真館 スタッフが見つけたしぜんのはなとコマ



ツルマサキ(ニシキギ科) 蔓 蔓正木

花や果実はなかなか見られませんが、初めて確認できました。名前の由来はマサキのツル性のもの。果実はマコモより小さくコマユミより大きく丁度中間くらいです。数は少ないですが赤い果実が熟しています。(駒野)



ハルジョオン(キク科) 春紫苑 別名ハルジョオン

ヒメジョオンとの対比からハルジョオンと呼ばれることが多い。北アメリカ原産の多年草。大正時代に園芸植物として渡来しました。各地の空き地や道端など至る所に群生しています。古い葉は黄色くなりながらも地面にぴったりと張り付き、じっと寒さに耐えています。(駒野)



ヘニマシコ(アトリ科) 漂鳥 全長15cm 下:オス 上:メス

ハードウォッチャーあこがれの赤い鳥の中では、比較的数量が多く、県民の森でも目にする機会が多い鳥です。背中白い二本の翼帯がよく目立ち、赤いのはオスだけで、メスは地味な茶色をしています。マシコは猿子と書き、サル顔のように体が赤いことからついた名称です。(入岡)



ルリビタキ(ヒタキ科) 漂鳥 全長14cm 左:オス 右:メス

オスは美しい瑠璃色で、脇腹のオレンジ色が目立ちます。メスは全体的にオリーブ色がかった茶色で、オス同様脇腹がオレンジ色、腰から尾羽にかけて瑠璃色をしています。渡りはせず、夏は高山で過ごし、冬はふもとの山林や雑木林で過ごす漂鳥(もしくは留鳥)です。(入岡)

イベントのスケジュールなどは裏面「2月・3月のイベント情報」をご覧ください